

薬学生の実務実習教育を担った「くすり教室」の実施

(社)徳山薬剤師会 高齢福祉対策委員会報告

10月25日快晴の秋空のもと、高齢福祉対策委員会委員5名が周南市須々万公民館で「くすり教室」の出前講義をした。今回も昨年と同様に、周南地区で実務研修中の薬学生6名を引率し、薬学教育モデル・コアカリキュラムおよび実務実習モデル・コアカリキュラムのうち、教育目標（一般目標・到達目標）（5）地域で活躍する薬剤師 一般目標：「地域住民に対する医薬品の適正使用の啓発活動における薬剤師の役割を説明できる。」 《地域保健》 9. **地域住民に対する医薬品の適正使用の啓発活動における薬剤師の役割の項目の実習見学を実施することが出来た。**

参加した薬学生は、医療をめざした学生ではあるが、会場で地域住民に積極的に関わる行動が欠如していること。指示したことも十分理解していないこと。などから、教育する大学側が入学当初より「**医療人を育てる。**」ことが十分教育出来ていないと感じた。今まで、私は各地域で「くすり教室」を継続しているが、薬学生はもちろんのこと薬剤師をめざす人たちに、**ボランティア活動意識が薄いため**、医療（薬学部）をめざす方には受験資格として義務教育からでも医療・福祉のボランティア活動意識を課せる教育をし、一定のボランティア活動単位を習得していることが必要と思っている。**薬学教育中もボランティア活動単位習得を必須とすることを提案したい。**

各地域の薬剤師のみなさま 地域住民へのボランティア活動をしてみませんか？

(ひの木薬局 御手洗昭子)

須々万のくすり教室に、今回で3回も講師をすることができとてもうれしく思いました。今回の講義内容は私にとって盲点の「健康食品」で、予習がとても良い勉強になりました。講義を引き受けることが私の知識を深められ、これからも他の講演内容に挑戦し講師を継続したいと思います。

((株)成和産業 関谷優子)

久しぶりに「高齢者おくすり教室」の講師を担当させていただきました。聴講される方が自分の両親と同じくらいという機会は少なく、よい勉強になりました。聞いておられて、理解出来たときの「うなづき」や独特の「笑い声」に、講師としての緊張はありましたが心和むひとときを過ごすことが出来ました。参加者のお一人は、私が病院で「糖尿病」についての質問にお答えした事のある方で、再会をととても喜んで下さり、現在の食事療法等を自分なりに継続されておられるようでした。説明した私としてもうれしかったですし、「日々、まじめにやっていて良かった」と再認識致しました。この機会を与えて下さった御手洗先生にも感謝いたします。(徳山中央病院 益成宏)

今回は、婦人会の方を対象としたお薬教室という事で、華やかな雰囲気となりました。毎回、講演する時は緊張しますが、ゆっくり分かりやすく説明するよう心がけています。

このお薬教室を通じて、市民の方々に、医薬品・健康食品に対する正しい知識を身につけて頂きたいなと思います。

(神女薬局 堀岡由紀子)

須々万婦人会のご要望で健康食品についての講演でした。今回の依頼により皆さんの健康食品・サプリメントに対する高い関心がうかがえると共に、私自身それらを掘り下げて調べる良い機会となりました。講演最後には普段から何気なく疑問に感じていることが質問され、地域の方々が気軽に質問できるこのような「くすり教室」の場は大切だと感じました。

これからも地域の方々の健康増進に少しでも寄与できるようこれからの業務に繋げていきたいと思っております。

(代々木薬局 小野寺志葉)

お薬教室に参加しました。自分も知識不足で、サプリメントや健康食品に頼ったことがあります。

しかし、これからは薬のプロとして、正しい知識と使い方を身に付け、患者さんに伝えていけるようになりたいです。

(福山大学 田坂友佳)

お薬教室に参加させていただきました。健康のためにサプリメントを飲まれている方が多くいる事が分かりました。そのため、病院でもらったお薬との飲み合わせの相談にのり不安を取り除いてあげる事が大切なことだと思いました。また、サプリメントは医薬品ではないことを説明し、服用して何か症状が出た場合は飲むのを止めて頂く様に指導することが重要なことだと思いました。

(広島国際大学 富永佳敬)

薬剤師講師のお話を聞いているとやはり健康食品やサプリメントを使用することで、副作用や相互作用は起こらないと考えている方が多いのかなと思いました。健康食品等での健康被害を防ぐためにも薬剤師はお薬教室などで健康食品等の適正使用の知識を広めるとともに、お薬手帳に健康食品等の記載を促すこと、患者さんの健康食品等の使用状況を確認することが大切なのだなと思いました。

(神戸薬科大学 有馬友恵)

お薬教室で感じたことは、サプリメントや健康食品はお試しをしてから安全に使用することが必要ということがわかりました。医薬品だけでなくサプリメント、健康食品の正しい使い方の知識もしっかり伝えられる医療人になりたいと思います。

(福岡大学 倉田久嗣)

お薬教室に参加し、健康の為にサプリメントを使用される方が多くいることがわかりました。現在使用中の医薬品との飲み合わせのこと、サプリメントは医薬品ではないこと、サプリメントを使用中に普段と違う症状が出た場合に使用はすぐ中止し薬剤師に相談することなど、薬剤師が十分説明し市民のみなさまの不安を取り除くことが大切だと思いました。

(広島国際大学 富永佳敬)

地域の方の健康に対する関心の高さを知りました。健康維持のために使用し始めたことで害を生じないように薬剤師が良き相談相手となり健康への助言をすることが大切であることがわかりました。私も信頼される薬剤師になるべく勉強に励みたいと思います。(安田女子大学 小林美里)

健康食品を含め薬剤師に相談して貰うことの大切さ、お薬手帳に使用中の健康食品を記載するよう指導された今回のくすり教室の講義で、参加された地域の方々の意識が変化しているのが教室全体に伝わってくるのを感じました。地域住民への啓発活動の一環として、おくすり教室を開催することも薬剤師の役割と実感しました。

(広島国際大学 年光 優)



仲良くアンケート回答中



熱心にパンフレットの解説を聞く市民



参加した薬学生



「健康食品・サプリメントの使用前の注意」の講義